



令和8年度文化庁文化芸術振興費補助金
(地域文化財総合活用推進事業)



第五回

とめ伝承 芸能まつり

開会あいさつ 10:50	
長下田神楽 「鶏舞」	長下田神楽保存会
つやま打囃子	つやま打囃子保存会
【特別出演】 石巻市指定無形民俗文化財 北上町女川法印神楽 「所望分け」	北上町女川法印神楽保存会
休憩 12:20 ~ 12:50	
小島願人踊	小島願人踊保存会
赤谷神楽 【忠信 兄継信尊の場】	赤谷神楽保存会
笹流加賀野神楽 【一の谷合戦 敦盛首取りの場】	笹流加賀野神楽保存会
閉会あいさつ 14:30	



伝統芸能伝承館「森舞台」
宮城県登米市登米町寺池上町42
……登米総合支所より徒歩5分
……三陸道登米ICより車5分

- お車でお越しの方は登米公民館・登米総合支所の無料駐車場をご利用ください。
- 高速バス（仙台⇄とよま総合支所）については東日本急行の時刻表をご参照ください。

令和8年
6/28日
午前10:50開演

伝統芸能伝承館
「森舞台」
登米市登米町寺池上町42番地

※「森舞台」の入館料200円がかかります。

■主催／登米市地域伝承文化保存支援推進会議 【事務局】TEL0220-34-2332 E-mail : bunkazai@city.tome.miyagi.jp
■後援／登米市、登米市教育委員会、登米市民俗芸能協会、登米市青年団連絡協議会、(一社)登米市観光物産協会、登米市文化協会、H@!FM
(公財)登米文化振興財団、(株)とよま振興公社、全国民俗芸能保存振興市町村連盟、(公社)全日本郷土芸能協会

上演団体紹介

「とめ伝承芸能まつり」は、民俗芸能団体の技術の継承や後継者の育成、地域伝承文化を継承する子供たちの発表の場として、市内外へ広く地域文化の魅力を伝えることを目的に開催します。



【登米市指定無形民俗文化財】 長下田神楽 (長下田神楽保存会)



明治26年(1893)西磐井郡油島村(現一関市)の上油田神楽の南部神楽師佐藤和三郎氏を師匠に招き五穀豊穡を祈願して「橋向神楽」として設立されましたが、その後二つに分かれ、昭和24年(1949)池田清治氏を師匠に「長下田神楽」として継承されました。昭和56年(1981)から「ふるさと教育」の一環として石越小学校の子供たちに神楽「鶏舞」を伝承しています。

【登米市津山町地域伝承芸能】 つやま打囃子 (つやま打囃子保存会)



豊作を祈って打ち囃され、鎮守の祭りに奉納される柳津打囃子は、京と平泉を結ぶ交通路の一部として北上川が賑わう中で京の祇園囃子が柳津に伝わり根を下ろしたのが始まりです。その後、戦争の影響を受け、再度途絶えてしまいましたが、昭和54年(1979)に保存会が結成され、「通囃子」と「研囃子」が伝承されています。

毎年4月に行われる神社祭典で山車行列とともに、豊年満作・無病息災・青少年健全育成を祈願し奉納しています。

特別出演

【石巻市指定無形民俗文化財】 北上町女川法印神楽 (北上町女川法印神楽保存会)



法印神楽は起源がはっきりしていませんが、気仙神楽とも呼ばれ、約500年以上前から伝わる神楽とされ、気仙地方から南下しながら各地へ広まり、現在の形に整ったのは江戸時代以降と考えられています。

北上町女川に伝わる流派は、南三陸町戸倉から伝わった「日本舞」です。

江戸時代までは修験者が中心となって舞っていましたが、明治時代の神仏分離令により、神楽は一時衰退しました。その後、明治末期に氏子たちが菅原秀傳氏から神楽を学び、その後、昭和初期には佐藤喜八郎氏から伝授され、現在の舞の手振りの基礎となりました。

昭和42年(1967)に、保存会が結成され、昭和58年(1983)には無形民俗文化財に指定されています。現在は、後継者の育成を進め、10代から20代を含め12名の会員が活動し、地域の小中学校での伝承活動や、神社への奉納、イベント出演などを行いながら伝統を守り続けています。

【登米市指定無形民俗文化財】 小島願人踊 (小島願人踊保存会)



江戸時代の中頃、願人坊と呼ばれる半僧半俗の遊行僧たちが、伊勢神宮参詣の代参などをしながら諸国を廻り歩いたとき、伊勢音頭や住吉踊を主体とした唄や踊りを演じていたのが願人踊と言われています。江戸時代末期に、小島に滞在した願人坊たちから習い覚えた一つにこの願人踊があります。

昭和57年(1982)に全国青年大会郷土芸能の部に出場し、「小島田植踊」に続いて二度目の日本一に輝き、米国ディズニールランド公演を果たしました。

【登米市指定無形民俗文化財】 赤谷神楽 (赤谷神楽保存会)



明治26年(1893)、西磐井郡油島村(現一関市)の上油田神楽の南部神楽師佐藤和三郎氏を師匠に招き五穀豊穡を祈願して「橋向神楽」として創設されましたが、その後、「赤谷神楽」と「長下田神楽」の二つの団体に分かれて継承されました。昭和26年(1951)に保存会が設立され、県内外で開催される各種神楽大会に数多く出場しています。

【登米市指定無形民俗文化財】 笹流加賀野神楽 (笹流加賀野神楽保存会)



「笹流神楽」は、岩手県一関市赤笹谷から若柳町に婿養子に入った南部神楽師・高橋忠右衛門が興した流派です。

明治43年(1910)、鹿野吉三郎を師匠に招き中田町石森野元の千葉源吾宅において修練を積み、「野元神楽」として始めたのが「加賀野神楽」の前身です。昭和20年頃(1945)まで盛んに演じられてきましたが、戦後は後継者不足のため行われなくなりしました。

昭和53年(1978)、長らく途絶えていたこの神楽を何とか後世に残そうと加賀野地区の青年が中心となり「加賀野神楽」として復活させました。